

1980年代以降の生物相の変化と適応策

日 時：2019年10月27日（日）10:00-13:00

場 所：ワークピア広島（芙蓉）〒732-0825 広島市南区金屋町1-17

開催挨拶 生田和正（日本水産学会中国・四国支部長）

趣旨説明

話 題（各タイトルは変更の可能性があります）

1. 瀬戸内海における環境変動 加 三千宣（愛媛大）

2. プランクトン・ベントスの分布変化
 - 1) 植物プランクトン（有害プランクトン含む） 西川 哲也（兵庫水技セ）
 - 2) 動物プランクトン 藤原 建紀（京大名誉教授）
 - 3) ベントス 辻野 睦（水機セ瀬水研）

3. 漁獲対象種の組成変化 河野悌昌（水機セ瀬水研）

4. 環境変動への適応策
 - 1) 藻類（ワカメ類） 多田 篤司（徳島水研）
 - 2) 魚類（ハタ類） 中川 雅弘（水機セ西水研）

5. 総合討論

閉会挨拶 生田和正（日本水産学会中国・四国支部長）

開催趣旨：1980年代以降、「レジームシフト」といわれている生態系の大きな変化が、我が国周辺海域で認められている。瀬戸内海においても、漁獲量の減少及び漁獲対象種の変化等が報告されているものの、これらの変化が「レジームシフト」と呼ばれるものに関係した現象であるかについては十分整理されていない。本シンポジウムでは、1980年代以降におけるプランクトンや魚類等の出現傾向の変化等を整理して、他海域におけるレジームシフトとの類似性について検討するとともに、近年の環境変動による漁業・養殖業等への影響を緩和するために現在実施されている取り組みを紹介し、生物相の変化を踏まえた今後の研究方向を考えるための意見交換の場としたい。